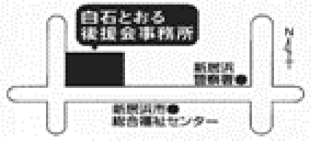
Try
あふれる愛 ひろがる夢 こみあげる感動のまちづくり
白石とおる
徹(Toru)と地域(Region)とあなた(You)

〈発行人〉
白石とおる後援会事務所
〒792-0026 新居浜市久保田町3丁目9番25号
TEL 0897-65-3751 FAX 0897-65-3752
●URL http://www.shiraishi.gr.jp/
●E-Mail toru@shiraishi-inc.co.jp



御挨拶

―新たな年を迎えて―

昨年は、3月11日に起こった東日本大震災や台風15号による豪雨災害など、自然の思わぬ猛威によって大きな被害を被った年でありました。日本全国で多くの人々が災害の状況を目の当りにして胸を締め付けられるような思いで見守っていたのではないでしょうか。

私自身、被災地を訪れる度に迅速な復興対応を痛感するところでありますし、また、私に何ができるだろうか？と自問自答を繰り返していました。

それと同時に、今、この時に政治の場において、東日本や被災地復興の先頭をきって活動できない自分に歯痒さも感じてきました。

現政権の対応の遅さというもののみならず、政治全体に対して多くの国民が、不信感を根強くせざるを得ない現状です。

今、国民に広がる政治に対する不信感は大きなうねりとなり、政権政党のみならず野党を含む全既成政党政治家に対して大きな変革を求めています。

それは正に民主政治の大転換となりうるものだと思います。

橋下氏の維新の会の政治スタイルが決してその民主主義の新しいスタイルであるとは思っていません。転換期に必然的に越えて行かなければならないハードルを、身を呈して切り開いて行く橋下氏の知恵と勇気と行動力には心からの称賛を送るところであります。

さらに進化を遂げた民主主義は、主権在民を徹底追及するとともに、中央政治と地方政治のパラダイムチェンジを起こさなければならないと考えるのです。現場主義に基づく地域起点の「しくみ」づくりを進めなければなりません。

そして、地域における新たな「しくみ」づくりが、国全体を変革に導いて行くのです。私の政治信条である地域から日本を変える絶好のチャンスであります。

皆様と共に進める地域における活動が、全国へと広く展開され、新しい「しくみ」となって行くのを現実に目の当りにしながら政治に取り組んで行きましょう。これからの私の政治は、誰の手に委ねるものでもない、私と共に皆様で新たに築き上げて行くものなのです。

今後とも皆様のご指導ご鞭撻を心よりお願い申し上げまして、ご挨拶とさせていただきます。

白石 徹

麻生太郎元総理 来る

平成23年6月26日（日）の時局講演会に、麻生元総理におこしいただきました。

今、活動されている政治家の中で、私の最も尊敬する政治家であります。長きに渡って、ご指導をいただいていることもありますが、その時に頂戴した言葉は私にとって、かけがえの無いものでありました。落選のときには、残念だったことよりも、次はこうやれ!!これからはこんなふうにやって行くんだぞ!!とずいぶん励まされました。私は、たとえ敗北したとしても麻生元総理のもとで戦えたことは、有難く感謝しております。

どんなに批判されようとも、国民第一で突き進まれた経済対策。リーマンショックによる世界同時不況、まさに百年に一度の大不況といわれた状況下で、総理に就任したにもかかわらず、就任直後の10月には1次補正予算を通過させると、10月末には、23兆円にもおよぶ、「生活を守るための景気対策」の骨格をつくり、10月にはその法案を通しておられました。一年間に四回も予算を作り通した総理大臣はほかにおりません。そのころは、とにかく景気の底割れを防ぐんだとおっしゃっていました。それらの施策のスピード感、決断力、さらには、内部からの足の引張りにも屈することのない強い精神、信念、期待通りのお話をいただきました。

また、楽観主義は信念が必要、悲観主義には主体性が無い!!楽観主義を通すのは、かなりの信念がなければできない。国債の発行は、国民の借金を作っているのではなく、政府が国民に借金しているのである。有事の時には、緊縮財政や財政再建は二の次、有事のときには、財政出動!!税制出動によって、その後の投資的意欲を喚起させることのできる施策の実行などを、身近な話でわかりやすく話してくださった麻生元総理に千二百人あまりの観衆は、釘付けでありました。

麻生元総理とツーショット

小池百合子さん来る

平成23年12月17日（土）ふるさと対話集会を行いました。当初は対話集会を9月に企画していたのですが、その時に急遽、山形市長選に応援演説に行かなければならなくなり、延期していたのですが、小池先生の方から約束を果たしたいと、こちらにいらっしゃる旨の連絡をいただき、今回の来訪となりました。前回予定していた赤沢先生もご一緒です。

基本的には、前回同様、福祉関連の皆さんを中心に集まっていただき、忌憚のない意見をいただく会を開催しました。

（一）第一会場・建設協会関係者と、自民党市議、並びに女性局の皆さん。（二）第二会場・福祉施設関係者並びにボランティアの皆さん。（三）第三会場・保育園関係者。

どの会場でも活発に意見をいただき、私自身、非常に勉強になりました。

特に、建設業界では災害が起こっても緊急に出動することができるかどうか、ぎりぎりのところで企業活動を行っています。それほど厳しい状況にあります。

福祉、保育園、双方とも従事者の処遇の問題、給与が低い、そしてきつい労働環境、さらには人材不足など。どちらも、かなり極限的な状態にあるように思われます。ただちに、抜本的な改革を進める必要があり、次回は農林水産漁業者の方からの色々な意見をいただきたいと思います。

対話集会を終えて、すみれ保育園のイルミネーションの点灯式に参加致しました。かなりの寒さでしたが、常時、小池先生も赤沢先生も笑顔でみなさんに対応して頂きました。今回の対話集会は、少人数で行い、会を通じて意見をいただけたみなさんの思いはもとより、さらに強く感じたのは小池先生の信念でした。こんな人が、総理になればいいと思いました。

すみれ保育園にて地元の人たちと点灯式

元防衛大臣 小池百合子先生とツーショット

東日本大震災 新居浜ボランティアネットワーク

第一弾 女川町へ

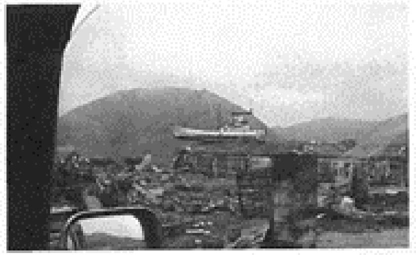
平成23年3月11日（金）東日本大震災で、被災された皆様にお見舞い申し上げますとともに、犠牲となられた方々に謹んで哀悼の意を表します。

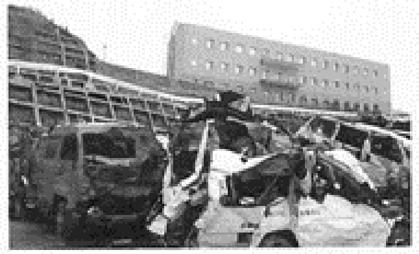
女川町に住む友人の安否が気がかりでした。テレビのニュースでは女川町の映像はほとんど流れません。壊滅的な状況という報道があり、すぐにでも飛んで行き、暖かいストーブと毛布を手渡してあげたい気持ちでした。

今私たちに何ができるのか、何をしなければならないのか、そういう思いがありました。

現地の社会福祉協議会や愛媛県から現地入りしている人とも連絡が取れ、いよいよボランティアがスタートしました。災害救援ネットワークにて、現地へ行けるボランティアの方を募集して、4月8日から3日間、炊き出しや支援物資の配送を実施し、ようやく全国規模でボランティアを現地に派遣する組織が立ち上がりました。

またクックチャムさんにもご協力を依頼し新居浜市の物産や、新居浜名物いもだきを、現地でみなさんに提供しました。支援物資も、市役所の発送便に便乗させていただき現地へ送りました。


建物の上に船が…


無残な姿になった車

第二弾 女川町と気仙沼

当選間もない大石市議、永易市議が事務所にやってきました。「今度は、泥除けボランティアに行きましょうよ!!」元気のいい二人の言葉に相変わらずのすがすがしさを感じます。

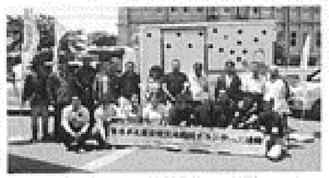
「よし、やろう!!」二つ返事で応えて、早速打ち合わせを行いました。新居浜災害支援ボランティアネットワークの再始動です。

東日本大震災の災害支援ボランティアの第二段も、現地の情報を再度収集し平成23年5月27日～5月31日の4日間で前回同様の炊き出しボランティアと泥除けボランティアの両方を行いました

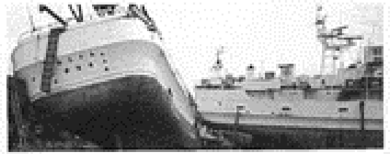
また、今後の継続的なボランティアができる準備もしておこうと思い現地のボランティアセンターとの情報交換も行いました。この一週間で、ボランティアの募集から現地の段取りまでできるかどうか、少し不安でしたが、若い二人が先頭に立って段取りをしてくれましたので、心強く、頭に浮かぶのは、前回のボランティア活動に参加してくれた人たちの顔でした。どの顔も、また、行きますよ!!」と語りかけてくれていました。

27日の午後四時に出発をし、車中泊。しかも、行く道で石巻へ支援物資を届け28日は前回と同じ、女川町へ行き炊き出しボランティアをし、気仙沼の民家で雑魚寝でした。29日気仙沼にて、炊き出しボランティア&泥かきボランティア、気仙沼にて前日同様、宿泊をして30日気仙沼にて、終日ボランティア活動、夕刻に気仙沼を出発、31日新居浜到着という今回も強行軍でした。

前回に引き続き、料飲組合の森本さんや諏訪さんの参加や、クックチャムさんからも、前回同様、保冷車と7人もの参加をいただきました。2度目の人は、女川の人たちにまた会えることを、楽しみにしていました。また、気仙沼では前回、支援物資を送ったNPOの皆さんにも現地で会うことができました。今回の成果がまた、次の活動につながるように、期待しております。


ボランティアの皆様おつかれ様でした

石巻市イオンにて


気仙沼港近辺の状況

第三弾 気仙沼市役所訪問

平成23年8月8日、今回で三回目となる東北地方でのボランティアを行いました。

私は、前日から東北入りしていましたのでボランティア本隊とは一関インターで合流し、そこからは一般道で気仙沼市内に向かいました。市庁舎につくと、観光課の熊谷課長に迎えられみんなで市長応接室へ。まずは、日本語の会からのメッセージ、次に、身障センターの皆さんの千羽鶴と寄せ書き、他に、お手玉や冷凍みかん、白いもキャラモッチなどを、みんなで贈呈しました。気仙沼市側からは、副市長が対応してくれました。副市長からのお礼のメッセージの後、みんなで写真撮影。実は今回の訪問は、当月新居浜で開催される「笑顔甲子園」にエントリーしてくれている気仙沼の高校生に市からも激励してもらいたいと、お願いに来たのです。とにかく、気仙沼市との関係を深めるきっかけになればいいと思うのです。

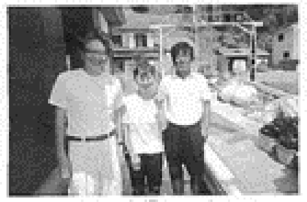
千羽鶴の贈呈

気仙沼市役所にて

ボランティア-i n唐桑

平成23年8月8日市役所をあとにした私たちは、救援物資の搬送先である唐桑へ行きました。

物資をストックする場所を案内してくれる人を待っている間に、前回のボランティア派遣でお世話になった、菅野さんのお宅へ。〝まあ～～!!すごく元気な人です。とにかく周りの人をみんな明るくしてしまうほどのパワーを感じる女性です。菅野さんが案内してくれるままに、ボランティアの人が手伝っている作業場へ。そこでは、震災にあったカキの養殖用の母貝をつなげて海に投下できるように準備をしていました。ほとんどのメンバーが学生です。そのなかに、新居浜出身（現在は神奈川在住）の人と会いました。元気な菅野さんと、ご主人と三人でワンショット。その後、ボランティア本隊に合流し、物資の荷卸しです。なんと、物資の荷卸し場所は、ついさっきまで私たちがいた、菅野さんの自宅の倉庫でした。そこには、明日からボランティアの人たちが三十人ほどやってくるそうでした。


菅野さん夫婦とワンシーン

物資の運搬

陸前高田 訪問

平成23年8月9日（火）の最終目的地、陸前高田に到着。竹駒小学校にて炊き出しボランティアを行いました。午後三時に準備を始めて、五時開始まで大忙しです。クックチャムの皆さんは、さすがに手馴れているので、手際よく出来ていきます。驚いたのは、クックチャムさんの味に対するこだわりでした。炊き出しボランティアだからといって、味に妥協はないようです。ハンバーグのデミグラスソースなども入念に味見を重ね、いつもの納得ゆくところまで仕上げていくのです。ご飯も炊き具合の不十分なものは、出さないと判断されます。たとえボランティアであろうともプロの意識を常に持つということの、すごさを感じました。

当然ですが、長蛇の列が出来上がります。カキ氷のほうも大盛況でした。一生懸命、芋炊きを注いだり、追加の芋炊きを準備したりしてるうちに、陽もすこし陰ってきました。仮設住宅で生活している皆さんに喜んでもらえたことが一番の疲労回復剤です。また、夜遅くに帰ってくる息子に食べさせてやりたいと、遠慮そうに二度目にやってきたお父さんの、「これ、旨いねえ!!」という言葉が、心地よく耳に残ります。あっという間にすべて配り終えました。

新居浜名物"いもだき"準備

鮪立児童館炊出し

平成23年8月10日（水）鮪立児童館にて炊き出しを行いました。朝、仙台市内から気仙沼鮪立児童館へ移動しました。みんな手際よく準備にとりかかり、いも炊きを担当する人、かき氷を担当する人、クックチャムの皆さんは、当然のように素早く料理の段取りをしていきます。初めてボランティアに参加する人もいたのですが、現場の空気や雰囲気でスムーズに準備できていたと思います。

8月11日（木）は鮪立地区の、がれき撤去を行いました。津波の被害によりメチャクチャの状態なので分別は人の力でしなくてはなりません。食器類や思い出のアルバム、何もかもすべての物が混在していて、もちろん悪臭もあります。想像を絶する状況で驚きました。

8月11日の夜、現地（気仙沼）にてライトアップニッポン（花火大会）の行事に参加した後、新居浜へ向けボランティアのメンバーは気仙沼を後に致しました。

がれき撤去風景

真奈美夫人も頑張っています

「自転車首都」を目指して

自転車のまちづくりをめ
〜自転車に乗ると新居浜はどのように見える

自転車フォーラムでの挨拶

平成23年7月23日（土）自転車まちづくりフォーラムを開催しました。新居浜のかけがえのない資源である、住友鉱山鉄道跡は、まさに近代化産業遺産であります。そこが、自転車道に生まれ変わりつつあります。この快適空間を、もっと市民の皆さんと一緒になって、まちづくりに生かしていきたい!!そんな思いで開催したわけです。

私が開会の挨拶を。その後、古倉先生の「成功する自転車まちづくり」と題して講演をして頂きました。

世界の中で自転車のまちづくりに取り組んでいる国の様子や、自転車まちづくりによる効果などもつかめました。

パネルディスカッションは上山先生（新報道２００１のコメンテーターもつとめておられる）にお願いをし、議論がスタートしました。

基調講演、古倉宗治氏（京都大学教授）・パネルディスカッション、上山信一（コーディネーター）慶応大学教授、報道新２００１コメンテーター・藤井薫（パネラー）大阪府職員・上村珠美（パネラー）エッグプロジェクト代表・森賀盾男（パネラー）愛媛大学教授をお迎えして自転車都市宣言も行います。その中でいずれなんとか、『自転車首都』宣言をしたいと思ってます。そのためにも通勤車で日本一とか、自転車空間率で日本一などを目指してゆこうと思うのですが…。しかしながら、２０００年の国勢調査では、通勤車でいうと松山市が25・5％です。これが全国４位です。一方、今治市も20・9％で19位なのです。新居浜は18・2％と、全国39位です。自転車首都を目指すためには、もう少し上位のパーセンテージを目指してゆかなければならないのです。

そのほか、ママちゃり耐久レースなどもあり、当日は新居浜市活性化に向けての、いろいろな議論が交わされました。その後、時間がなくて、自己紹介を一巡すると、ほぼ終盤になってしまいました。

今回は、自転車まちづくりの多様性というものは、理解できたと思います。

今後、具体的にどのような活動を進めてゆくか、課題は山積ですが楽しみが多い会になりそうです。最後に、『自転車まちづくり市民宣言』を発表しました。『自転車首都』を目指して頑張ります。

上山先生からの説明

自転車で気分爽快in西条

平成 23 年7月、広島からやって来て、「まちづくり自転車フォーラム」に参加してくれた上村さんの言葉がよみがえって来ました。「自転車と出会ってから世界が変わりました。」瞳を輝かせて語る上村さんの笑顔が素敵でした。

一人では、なかなか腰の重い私ですが、家内も一緒にと自転車を購入。その自転車が組みあがったという連絡をもらって、早速受け取りに行きました。そこまでは、私の自転車は車に乗せて、そこからは、二人で「いざ!!サイクリング!」

とりあえず、旧東予市にある、お蕎麦屋さんへ（12 キロほどありました）そば屋さんの前で腹ペコの私がっ!!なんと、私たちの前の人で終了（蕎麦切れ）となったのです。普通なら、結構悔しがるところなのですが、私たちの前に並んでいた人たちは香川県から来てたということで、ぎりぎり間に合ってよかったと、妙に納得してお昼を求めて再出発。結局、違うお蕎麦屋さんで昼食とって、次に向かうは、西条駅近くの「カキ氷屋さん」。そこで、カキ氷をいただいて一路、新居浜へ。しかし、このごろになると、もうお尻が痛くてたまりません。

帰る途中、私の会社の社員に目撃され、思わぬ声援を受けてファイトが沸いて来ました。何とか帰ってきて、距離メーターを見ると、38 キロ走っていました。なかなか、やるな!!

小松のバイパスにて

新居浜お宝再発見 in 大物産展

平成23年11月20日（日）新居浜物産協会主催の「新居浜お宝再発見、大物産展ｉｎ新居浜駅前」と題したイベントを開催致しました。

今回のイベントは、新居浜にはこんなものもあった、さらにはこんな人も、こんな場所もあったなど、新居浜のお宝を再発見してもらおうと企画した物産展です。

前日とは打って変わって、嘘のような快晴で、少し寒くはありましたが、多数の市民の皆様方の来場をいただきました。開会式典の後は自転車の出発式です。警察署からも白バイやパトカーの展示などがあり、さっそくステージでは新居浜警察署による安全講習です。タイガーマスクが説明してくれました。新居浜高専のみなさんも早朝よりSLの準備と点検に頑張ってくれていました。シルバー人材センターのみなさんも早朝から餅つきの準備をしたりと各ブースでは皆さん大忙しです。ちょいと私のライブなども行いました。１回目の抽選会はアンパンマン列車が新居浜駅に到着するのに合わせ、森田駅長さんにも参加して頂き行いました。ステージではどんどんイベントが続いています。「おっ!!田坂さん」彼のトランペットも印象的でした。気仙沼からイベントのブースの為にやってきた皆様も、総勢10名（内女性6名）の参加です。大正琴の琴羅姫会の皆さんも、「さむ～～!!」と言いながら頑張ってくれました。その他にも、ユッキー、ブラックアベニュー、ヤマハ音楽教室、グリッスン、ブラウン、新居浜高専奇術部の方々にご参加いただきました。エンディングが近くなって、気仙沼の皆さんと記念写真を撮りました。

そしてエンディングは、ガスポネーションのゴスペルです。これは圧巻でした。

ボランティアで参加して頂いた新居浜南高や新居浜商業の生徒の皆様、またSLを運営してもらった新居浜高専のみなさんやJRの関係者の皆様方、そして、市内のボランティア団体の皆様、イベントステージに出場してくれた多くの皆様、総勢で百人を超える皆様に、いろいろな発表をしていただきました。物産協会の実行委員会の皆様や事務局のスタッフの皆様にも、ずいぶん頑張っていただきました。

また、遠く気仙沼から参加してくれた10人のメンバーが笑顔で新居浜を出発するのを見送れたことは、今回のイベントの大きな収穫でもありました。

そして何よりも貴重なのは、来場者と出展者や、出場者との繋がりができることです。とにかく成功裏に終わり、皆様に感謝であります。

シルバー人材センターの皆様のおもちつき

新居浜の皆さん
ご支援ありがとうございます

気仙沼の皆さんとワンショット

新居浜大島秋祭り

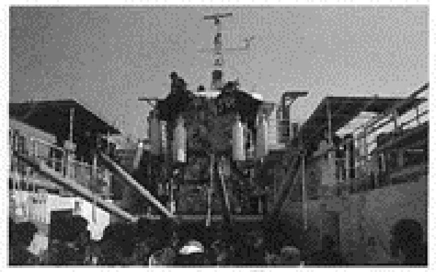
平成 23 年 10 月 8 日（土）秋晴れの日、東浜太鼓台が大島入りする日です。

去年も東浜の太鼓台が大島を訪れましたが、今年は大島祭りに日程も合わせての大島入りです。すこし早めに食事もかねて、黒島のフェリー乗り場の前にオープンした、「源花亭」にお邪魔しました。もうすでに、東浜太鼓台の皆さんを接待するために、から揚げやビールの準備をされてました。しかも、太鼓の接待のために午後のお客は断っておられたのです。なんとか、お昼はいただけました。四百八十円の日替わり定食は早くて絶品です。源花亭の皆さんの心意気に感謝致します!!

いよいよ、渡海船に太鼓台を乗せ出発致しました。十五分ほどで到着し島の皆さんの歓迎を受け、島での運行開始です。大島に到着してすぐ、挨拶をさせていただきました。島のお年寄りのみなさんが、こぞって御花を持ってきてくれます。青年団より御花御礼を披露してもらった後、島を運行致しました。その後、少し一人で路地を散歩をしてる間に、だんじりの蔵までやってきました。由緒ある大島だんじりはみごとな夜祭です。これまで何度も大島に来ているのに、初めて見ました。三台の歴史のある「だんじり」。昔は、それぞれの地区に太鼓台もあったそうです。以前、愛媛県歴史博物館の学芸員の方の講演で聞いたことがありますが、大島は、新居浜[illegible]太鼓台、西条だんじりのルーツなのだそうです。そこに船木の近藤君を発見。まさか彼が大島出身だとは知りませんでした。最近は毎年、この大島の祭りに来ているんだそうです。港の広場の東浜太鼓台と競演だんじりには西条からもかき夫のかたが応援に来てました。いいですね!伊勢音頭を披露してくれた白石さん。太鼓だけで歌うのですが、すごくエキサイティングなライブに感じました。

大島のだんじりは木彫りもさることながら、木組みがすごいと感じました。屋台自体は社を表現しているのでしょうが、その木組みが、「三手先」でした。この周辺の神社で「三手先」で屋根をくみ上げているところは記憶にありません。一台は「三手先」、もう一台は「二手先」でした。これはすごいです!!

いよいよ、フェリーに乗り込み黒島へ。島を出て都会に居る人、また、市内に住む人。皆さん「返ってきて、よかった。」と話していらっしゃいました。大島のみなさんの歓びが伝わってくるような集いでありました。



豪華絢爛

第四弾 三度目の気仙沼

平成23年10月29日（土）これで三回目の気仙沼での炊き出しボランティアです。今回も鮪立児童館で行いました。

少し早めに仙台を出発して児童館の駐車場で本隊が来るのを待っていると乗用車がやってきてご婦人が降りてきました。「岩手の母です。今日はよろしくお願いします!!」私も、よく分からないまま、「よろしくお願いします。」今日、やってくるショップチャンネルの社長の部下（女性で気仙沼出身）の方のご両親も応援に駆けつけてくれました。今回はショップチャンネル社長の篠原氏（新居浜出身）と息子さん、さらに、村上君（新居浜出身、横浜在住、お母さんをよく知ってるんです）、そして私の息子も東京から参加です。地元の方からも市議の守谷氏、さんまやの斉藤さん、たいんの菅野さん、地元の村上のおばちゃんにもお世話になりました。

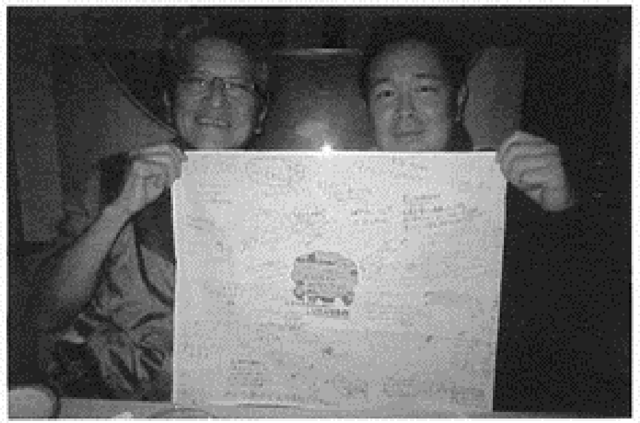
冬の物資も沢山持ってきたかいがあって、みなさんに喜んでいただけたと思います。子供達には綿菓子とポップコーンが大人気でした。クックチャムのみなさんも毎回参加をしていただき、誠にありがとうございます。本隊が物資とともに到着してからは、物資の降ろしから、食材の段取りなど、誰がここを担当するとか言わなくても、それぞれの役割を担ってくれました。とにかく、慌ただしい炊き出しボランティアのスタートでした。

ボランティアの仲間と

ボランティアのごほうび

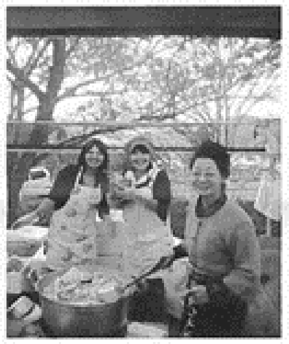
片付けを始めたのは、もうすっかりあたりが暗くなってからです。仮設住宅から出て来られない人のところへ弁当を配達したり、これまでお世話になった人のところへ持っていったりしてる間に、ほんとうに真っ暗になってしまいました。車のライトを二台分つけて、その明かりをたよりに片付けです。

ようやく食事の場所にたどり着いたのが午後九時前、ラストオーダーが午後九時三十分、閉店が午後十時ですから、大慌てで食べました。それでも、参加してくれた鮪立児童館の先生からいただいた、ハンカチを手にすると、もう食べることもそっちのけで、「宝じゃーーー!!」とばかりに、みんなで回し見です。鮪立児童館の子供達が、私達に寄せ書きをしてくれたのです。そのハンカチを持ってるだけで、嬉しくなってくるのです。まさに、ボランティアのご褒美ですね。



鮪立児童館さんからのメッセージ入りハンカチ

絆



がんばろう!日本! inしこチュービーチ

平成２３年４月関東大震災の支援チャリティーコンサートが四国中央市寒川のビーチで開催されました。POWER TO THE PEOPLE～元気と愛を愛媛から～と題して、愛媛県で活動するバンド10組近くが、出演されていました。実は、私のバンド「GOOD WILL」も出演致しました!!阪神大震災の時に作った曲「ガイア」、またその年に作った「LOVE LOVE LOVE」を披露致しました。（ドリカムより早くこの曲名はつけてましたから。）また、１９９７年、私の親友、村岡兼幸くんが「大変革、夜明け前」を出版したときに記念して作った曲、「夜明け前」などを披露致しました。すばらしい天気に恵まれ、久しぶりのライブでみんな楽しめたと思います。その他、イベントも組み込んでのチャリティーライブで、他の出演バンドメンバーを見ていると、さすがに若いと感じます!!

震災で音響の仕事がキャンセル続きで大変な営業環境なのに、このイベントを実行した藤原くんに、心から敬意を表します。

また、このビーチは一昨年、セックスマシンガンズのライブで、出くわしたセックスマシンガンズのリーダーの安ちゃん（新居浜出身）と出会った場所です。そこで演奏できることは最高に光栄であります。

がんばっぞ～～!! 私も、立っているのが精一杯かと思いつつ、ハッスルしてしまいました。

東日本大震災支援募金活動再び

平成23年9月4日（日）再び、東日本大震災の被災地支援募金活動を再開しました。震災後半年が過ぎましたが、引き続き支援をしてゆかなければならないということを伝えるためと、私たち自身にも、そのことをしっかり言い聞かせなければ…。

時が過ぎてゆくとともに、ともすれば震災のことも他人事のようになってしまいかねないと思うのです。私たちの前を通ってゆく皆さんの反応は、やっぱり震災直後の時よりは若干ダウンでしょうか？それでも、こちらに向かって歩きながらバッグの中からお財布をだそうとしてる方、子供に手渡して、募金箱に〝入れさせるおかあさん〟逆に、〝子供に（高校生くらいかな？）、自分の財布からしっかり出しなさいと言ってるお母さん〟〝通り過ぎたのに引き返してきて、わざわざ募金してくれたご〝家族〟募金をして頂くごとに、この善意をしっかり被災地に届けなければ!!という思いも強くなります。

イオン新居浜にて募金活動

災害支援ボランティア報告会

平成23年6月4日（土）新居浜災害救援ボランティアネットワーク主催の、東日本大震災支援報告会を開催しました。やはり、実際に現地へ行ってくれたボランティアの人たちの話は、胸に響きますね。また行った後も次は何ができるかと考えていただいている!!現地に行った人だからこそ、そう思えるのだと感じました。あと、今回気仙沼で自分たちも被災しているにもかかわらず高校生が避難所のみなさんを励まそうと頑張っている姿を見て、新居浜の高校生たちもボランティアに参加させたい!という意見もありました。

二回の炊き出しボランティアではずいぶんお世話になった、クックチャムさんの社員の方からは、「ボランティアから帰ってきて、社内で、もっとなにかできることはないか？についての会を開きました。」という発表もしていただきました。

皆さん、他人事とはとらえておらず、もし新居浜でこのようなことが起こったら…。そんな思いも強くもっています。県立新居浜病院の明比先生からは、災害拠点病院と他機関との連携を図るため、「災害医療ネットワーク」の必要性を話していただきました。また、新居浜消防署の石井さんから、現地での活動報告とあわせて、日頃からの市民の皆さんの意識改革の必要性の意見をいただきました。

最後に、私が「まとめ」をさせていただきましたが、大きな成果として募金活動や支援物資の運搬、さらには現地での支援活動を進めながら、複数の企業や団体が力を合わせた支援が我々の活動を通じて可能になったということです。其の成果はそのまま、今後長期的に活動を行ってゆくための課題でもあります。たくさんの意見をいただき、誠に有難うございました。

ウイメンズにて報告会